

昭和二十年初頭敵が本土周邊に迫り内外野の區別を附し難き状況になつたので北千島方面所在の千島方面根據地隊の大部をして大湊附近に轉進せしめ陸軍と協同し殘餘の所在兵力を以て千島の防衛を實施せしめた
昭和二十年五月一日海軍總司令部新設せられ海軍大將豊田副武が海軍總司令長官に親補せられ作戰に關し全海軍部隊を指揮する事になつた
五月二十七日には海軍中將小澤治三郎が豊田大將に代り海軍總司令長官に親補せられた

八月九日の蘇聯の關東に伴ひ米軍の本土來攻の時機が逼迫せるものと判斷し八月十三日「決三（東部地區）四（東海地區）五（中部地區）六（西部地區）七（對馬津島及其の西部地區）號作戰警戒」を發令したが八月十六日に至り大湊令に依り戰闘の中止を發令した

第四項 北東方面陸隊（第十二航空陸隊）の作戰指導

北東方面陸隊編成後同陸隊司令長官は北方軍と緊密なる連絡の下に戰略態勢の確保に努めた

同陸軍編成當初の電機區分並配備は次の如くである

合 聯	分 區	
方 東 北	官 指	
面 方 東 北	分 區	
航 地 基 二 第	官 指	
隊 艦 空 航 二 十 第	分 區	
襲 空 二 十 二 第	官 指	
隊 部 襲 空 一 十 二 第	分 區	
隊 戰 空 航 一 十 五 第	官 指	
官 令 司 隊 戰 空 航 四 十 二 第		
第一部隊 (八〇一空) 第二部隊 (五三二空) 第三部隊 (二八一空の一部) 第五部隊 (厚木空)	第一部隊 (七五二空) 第二部隊 (二八一空) 第三部隊 (八〇一空の一部 (二十八日原隊復歸)) 第四部隊 (秋津州(二十八日)以復歸部) 第五部隊 (四三三空(十五日)以復歸部) 第六部隊 (五一警備隊(五日)以復歸部) 第七部隊 (五一警備隊(五日)以復歸部)	兵 力 主 要 任 務 一 敵機動部隊攻撃隊隊捕 提 襲 滅 二 40 方面敵航空機掃討 送 船 襲 滅 三 洋上哨戒 四 對潛對空哨戒 五 局地海面防衛協力

隊 部 面		隊 部 面		隊 部 面	
官 長 令 司 隊 部		官 長 令 司 隊 部		官 長 令 司 隊 部	
種 方 北		種 方 北		種 方 北	
司 隊 部 五 第		司 隊 部 五 第		司 隊 部 五 第	
防 島 千	二 第) 隊 部 五 第	隊 部 部 部 部	官 長 令 司	隊 部	官 長 令 司
根 面 方 島 千	(缺 隊 部 二 十	官 長 令 司 隊 部 二 十 二 第	官 長 令 司	官 長 令 司	官 長 令 司
第五隊司令長官所定		第三監視艇隊	第二監視艇隊	第一監視艇隊	赤城丸、照興丸、神津丸、新京丸
一、機動部隊攻略部隊		二、航空機部隊		三、AO方面偵察	
四、層地帯面防衛		五、海軍部隊		六、航空基地設營協力	
七、戦力錬成					

三 備

第二十四航空隊司令部	第四五二空	第八〇一空	第二八二空	北東方面隊司令部	部
武蔵航空基地	別飛水上基地	横濱航空基地	同右	武蔵航空基地	所
		一部柏原水上基地 二十八日原陸軍	一部館山航空隊	十五日以降千歳航空基地	備
					考

附屬	司令官 司令部 司令部
第五氣象隊	通信隊報 氣象協力

- 五 對海警備、掃蕩、海上護衛
- 六 基地設備協力
- 七 運輸、補給、工作
- 八 氣象協力

第五三二空	館山航空隊	
第七五二空	武蔵航空基地	
第五十一航空隊司令部	横濱航空基地	
厚木空	厚木航空隊	
豊橋空	豊橋航空隊	
秋津州	柏原灣	
幌筈通信隊	武蔵航空基地	
第五氣象隊	同右	十五日以降根室

昭和十八年八月十五日以降北東方面機隊司令長官は千歳航空基地に於て全作戦を指導した

第五項 大湊警備府（第十二航空機隊）の作戦指導

大湊警備府は北東方面の資源地として北東方面機隊及第十二航空機隊の作戦に協力した